

二〇二二年六月二一日(参加者一五名)

梅天の仄と明るみ遥拝所	うつき
あめんぼの滑るに倦みて大ジャンプ	うつき
下闇に子丑寅の方位盤	うつき
青竹の笥を走る水涼し	うつき
湧き出ずるごとくに梅雨の水輪かな	うつき
雨垂れの音に風鈴黙しけり	うつき
祈祷殿前なる五葉松涼し	明日香
岩陰へ雨粒さけて水馬	明日香
雨だれのテラスの卓にをどりをり	明日香
大小の水輪がせめぐ梅雨の池	明日香
総玻璃の茶処四囲に花菖蒲	明日香
青銅の駿馬へ注ぐ緑雨かな	せいじ
梅雨じめりしたるおみくじ吉とでし	せいじ
万緑に千木の金色極めけり	せいじ
玉砂利ににじむ緑雨の潦	せいじ
万緑の宮へとまたぐ朱大門	せいじ
亡き句友悼みつ茶屋のわらび餅	こすもす
序破急を告ぐる雨音梅雨寒し	こすもす
な滑りそ梅雨しとどなる太鼓橋	こすもす
橋裏に雨宿りするあめんぼう	こすもす

戎絵の団扇置かるる甘処	小袖
梅雨の茶屋守りし媼の恵比寿顔	小袖
白玉や緑射し込む宮の茶屋	たか子
今日夏至の六甲連山棚曇り	たか子
神域の一步に深き木下闇	ほんこ
老松が傘なす梅雨の遥拝所	ほんこ
跳ね橋の跳ねるや否やつばくらめ	凡士
砲台の沖を過ぎゆくヨットかな	凡士
花菖蒲残る一輪池統ぶる	よう子
神苑の太鼓一打や梅雨迎え	よう子
あめんぼう雨の水輪にとまどひぬ	あひる
練塀に沿ひて吟行梅雨しとど	わかば
砲台を埋めつくして姫女苑	豊実
梅天へ神迎えなる大太鼓	もとこ

定例句会みのる選

二〇二二年六月二一日(参加者一五名)